

平成26年度 第4回 東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1. 開催日時・場所

平成27年2月25日(水)15:30～17:15 東北森林管理局 2階大会議室

2. 出席者

【委員】

黒瀧委員、向中野委員、澤田委員、高橋委員、庄子委員、林委員、菊地委員

【委員代理】

太田委員代理 山形県森林組合連合会 中村氏

【オブザーバー委員】

新秋木工業(株)佐々木氏

3. 検討結果

現時点では、特に供給調整の必要はないが、低質材については、不足・原木高傾向がみられることから、引き続き安定供給に努め、未利用材の生産に更に努力してもらいたい。また、製材用素材については、需要の動向を踏まえた臨機な対応をするとともに、新年度の生産・販売については、早期の出材に努めてもらいたい。

4. 主な意見

1) 国産材需給

- 製紙用チップ素材は、広葉樹の素材生産量が減っているため、集荷に苦労している。地域によっては、針葉樹チップ素材は合板用素材に近い価格になっている。
- 復興関係の補助事業の影響もあり、合板用素材の出材は多い。
- 昨年末には製材用素材の不足感、ひっ迫感があったが、今はなくなった。
- 宮城県の素材、製材品は岩手県から入ってくるものが多いため、岩手県南部に合板工場ができると、その影響が懸念される。
- 合板は生産調整により在庫が増えないようにしているが、2月に入ってから特に荷動きが緩慢となっている。

2) 他地域への輸送、輸出

- 日本からの輸出丸太が上海で5万m³の在庫となっている。中国の住宅・不動産市場があまり良くなく、丸太輸出は去年までとは状況が違ってきている。
- ルーマニアで年間10万m³の中型断面を生産する集成材工場から輸入される予定があり、その影響が心配される。

3) その他

- バイオマスの原木輸送に対する補助金によって木材価格の相場が混乱しており、需給に応じた価格形成が必要である。
- 伐出の作業員と素材運搬用トラックの不足が続いており対策が必要である。
- 皆伐・再造林を進めるには、苗木の不足、特にコンテナ苗木の不足が懸念される。